

笹川記念保健協力財団 地域啓発活動助成

(西暦) 2018 年 1 月 31 日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
会長 喜多悦子 殿

2017 年度地域啓発活動助成

活 動 報 告 書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

小学校高学年へのがん教育 帝京サマースクール

活動団体名： 帝京大学医学部緩和医療学講座

活動者（助成申請者）名： 大澤 岳史

I 活動の目的

帝京大学では2013年より、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの市民啓発活動の一環として、小学校5、6年生を対象とした呼び込み型がん教育を実施してきた。これは、厚生労働省の第2期がん対策推進基本計画に2012年6月、分野別施策及びその成果や達成度を測るための個別目標に新たに盛り込まれたがんの教育・普及啓発を念頭においた取り組みの一つである。

プログラムは体験・見学を中心に構成され、印象に残りやすいものとなっている。プログラムを通じて考えることは児童個々で異なると思われるが、「真の健康とは何か」「がんを通して自分の身体に興味をもち心身を大切にする」「社会を支えるチームの一員としての役割に気づく」ことを目的としている。

II 活動の内容・実施経過

1) キックオフミーティング

2017年6月1日、体験実習、病院見学、レクチャー、事務担当者、計15名によりキックオフミーティングを開催し、対象、日程、募集方法、プログラム、事前準備等について話し合わせ、以下のように決定した。

開催日：2017年 7月22日（土）10時から15時半まで

対象：小学校5、6年生45名

募集方法：広報は、近隣小学校（板橋区、北区、豊島区）へのチラシと掲示用ポスター配布、帝京大学ホームページへの掲載にて

(URL: https://www.teikyo-u.ac.jp/campus_news/itabashi/2017/0616_6438.html)。

申し込みはE-mailで先着順に受付（初めての方を優先）。

プログラム：

9:30-10:00 受付

10:00-10:30 開会のあいさつ、プログラム説明、参加者・スタッフ自己紹介

10:30-10:55 オープニングレクチャー「がんのことを知ろう」

10:55-11:05 集合写真撮影

11:05-11:10 移動時間

11:10-12:10 体験実習×2

内科：痛みやつらさに関するレクチャー、血圧測定体験

外科：手術シミュレーターを使用した外科体験

病理：顕微鏡を用いて正常細胞とがん細胞の観察体験

12:10-12:45 昼食（サンドイッチ、夏野菜のラタトゥイユ、からあげ、ポテト、フルーツ）

栄養摂取についてのレクチャーを食事摂取時に行った

12:45-13:00 休憩・移動

13:00-13:30 体験実習×1

13:30-13:40 病院ツアーの説明

13:40-14:40 病院ツアー（放射線治療室、手術室、化学療法室）

14:40-15:10 クロージングレクチャー「がんを通してよりよく生きていくことを考えよう」

15:10-15:30 閉会のあいさつ、表彰式

2) 応募状況

募集開始後すぐに募集人数を超える申込みを頂き、受付を終了した。体調不良などもあり、最終的に参加者は42名となった。

3) スタッフ：企画責任者1名、各部門責任者10名、各部門実務者17名、食堂スタッフ4名、学生アルバイト21名、大学事務スタッフ3名 計56名が開催の企画と当日の運営に携わった。

4) 活動の実施経過

① 体験実習

外科実習では臨床で用いるガウン・キャップ・マスクを装着し、鏡視下に紐でつるした景品を切り取ることを体験し、小さな穴から腹腔内の手術ができることを学んだ。病理実習では、顕微鏡を使ってがん細胞と正常細胞をスケッチし、その差を観察した。内科実習では小学生用白衣を着て血圧測定体験後、苦痛をもった人のストーリーを聞き、つらさには心の辛さ、体の辛さなど一つではなく、人によって感じ方が異なり、つらさの質問をすることで他者の痛みを知る方法があることを学んだ。

② 病院見学

病院見学では、麻酔科医や看護師の案内で手術室の安全は多職種チームで守られていること、手術支援ロボット（ダヴィンチ®）を例に精度管理による安全の工夫、脳波計をみて意識状態を知ることで患者さんが苦痛なく手術が受けられることを学んだ。外来化学療法室では治療用リクライニング椅子の操作、静脈可視化装置の見学、看護師や医師から少しでも楽に治療を受ける工夫がされていることの説明を受けた。放射線治療室では治療の説明を受けながら、治療台や放射線治療装置の見学を行った。

③ クロージングレクチャー

1日の振り返りをした後、次のようなまとめを加えた。予防や検診は大切なことであるが、努力していても二人に一人はがんになる時代であり、罹患することもありえる。しかし、そのことは予防の失敗や悪いことをした罰のようなものではない。健康とは、よりよく生きること（Well-being）であってがんであるかないかで決まることではないこと、心と身体が落ち着いて日々が過ごせていることであり、私たちは一人一人がこれから先そのことを大切に生活していきたい。そして、困った人がいたら「大丈夫ですか?」「何かお手伝いできることはありますか?」と声をかけることで小学生でも社会を支えるチームの一員として参加できる。

III 活動の成果

1) 参加児童の背景

ほとんどが東京都内からの参加で、5年生が76%を占めた。中学校受験を控える6年生と

比べて、ゆとりのある5年生の方が参加しやすかったものと思われる。

情報ソースは「先生からチラシをもらった」「学校でチラシをみた」が約半数、2割は親からこのプログラムを紹介されて参加していた。また、3分の2は自分の意志で参加を決めていた。

2) プログラム評価

リカード式3段階評価で各プログラムについて質問した。すべてのプログラムにおいて、概ね好評を頂いたが、「一番勉強になったもの」の問いには8割を超える参加者が体験実習と解答しており、体験をすること、実際に本物を見ることは児童にとって理解しやすく、印象も適切に与えられるものと思われる。

3) アンケート自由記載

多数の児童が自由記載を残しており、そこからは、単に楽しい、嬉しいという感情に留まらない具体的な行動変容を含む感想が記載されている。具体的な内容を列挙してみると次のようなものが挙げられる。

「今日は本当におもしろいきかくをありがとうございました。医学への興味が少し高まった気がします」「がんのことをたくさん知れてとてもいい気分です。私のお父さんがたばこを1日に何回もすっているのが、がんのおそろしさをお父さんに伝えたいと思っています。がんはオペ以外でもちりょうできるんだなと思い、さいきんはすごいなと思いました。もっと未来ではがんが見つかるのがおそくてもなくならないようそういうものを開発してほしいと思います。人間の命を大切にしようと思いました。今日は本当にありがとうございました。楽しかったです。」「夏休み、体の不自由な人を見かけてたらこえをかけられたらいいと思う。」

IV 今後の課題

本活動は2013年に開始され、その後はできる限り同様のスタッフにてプログラム変更も微調整程度としている。このため、準備期間は比較的少なく負担軽減に繋がっていると考える。しかし、スタッフの多くは臨床の合間や通常勤務後に準備を行っており、負担を強いていることには変わりがない。また、開催費用についても今年度は貴財団からの助成を頂き、開催に至ったが、今後の継続的な開催に向けての課題が残る。

また、本活動のプログラムは体験を通じて参加者の思考・行動変容を促す短期的な成果がみられるが、このような教育の長期的な効果については今後明らかにすべきかもしれない。

V 活動の成果等の公表予定

本活動について帝京大学ホームページ

(URL: https://www.teikyo-u.ac.jp/campus_news/itabashi/2017/0725_6596.html)に開催を報告した。また、東京女子医科大学雑誌、日本緩和医療学会学術大会において過去の開催報告を行っている。

有賀悦子, 佐野圭二, 近藤福雄他. がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン『都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育』の成果(Part 1) 小学校高学年へのがん教育 帝京サマースクールについて
東女医大誌 87:1-2号, p20-25, 2017

貫田みゆき, 有賀悦子, 大澤岳史他. 学校におけるがん教育 小学校高学年へのがん教育・帝京サマースクールについて
Palliative Care Res 12: Suppl.S209 2017

帝京サマースクール 2017

がんを知ろう！

対 象：小学校5・6年生
参加費：無料



日 時：平成29年7月22日（土） 10:00～15:30
場 所：帝京大学 板橋キャンパス
定 員：45名（先着順・初めての方を優先）

- ◆ 体験実習（手術シミュレーター・顕微鏡・聴診・血圧測定など）
- ◆ 病院見学（放射線治療室・化学療法室・手術室など）
- ◆ 病院栄養士指導の昼食付



7月1日（土）より申し込み開始 ※申し込み方法をご参照ください。
お申し込みは以下のE-mailにてお願い致します。
※ 電話での受け付けはお受け致しません。
※ 7月1日以前の申し込みメールは無効と致します。

◇お問い合わせ

帝京大学板橋キャンパス 事務部教務課
TEL 03-3964-3294 (10:00～16:00 土日祝除く)
Mail t-summerschool@teikyo-u.ac.jp



主催：帝京大学 板橋キャンパス
後援：笹川記念保健協力財団 ホスピス緩和ケア事業部



目的：がん教育を通し、医療・からだへ興味を持ち、Well-being（よく生きること）や自分の健康に取り組む動機づけとなること、さらにがんに対する望ましい態度の形成に寄与することを目指しています。



プログラム（予定）

* 当日の進行状況により変更となる場合があります

9:30～	受付開始
10:00～	開会の挨拶・プログラムの説明等・参加者自己紹介
10:30～	オープニングレクチャー「がんってなんだろう!？」
10:55～11:05	集合写真撮影
11:10～	体験実習 ※
11:40～	体験実習 ※
12:10～	昼食（学生食堂にて）
13:00～	体験実習 ※ ※ グループワーク（3グループに分かれ、①、②、③を30分ずつ回ります）
	① 病理体験：顕微鏡をのぞいて、正常細胞とがん細胞を観察
	② 外科体験：腹腔鏡手術シミュレーターによる実習体験
	③ 内科体験：白衣を着て聴診器による血圧測定等、痛みなどの測り方体験
13:30～	病院ツアー：がんの治療施設を見学してみよう ①放射線治療室、②化学療法室、③手術室
14:40～	クロージングレクチャー 「がんを通してよりよく生きていくことを考えよう！」
15:10～15:30	閉会の挨拶、修了書授与

申込方法

メールに以下の必要事項を記入の上、以下のメールアドレスまでお申込みください。

必要記載事項：メールタイトル：「サマースクール参加希望」

本文：氏名・性別・住所・電話番号・年齢・学校名・アレルギー情報・保護者氏名及び連絡先
t-summerschool@teikyo-u.ac.jp ※お電話等でのお申し込みは受付致しません。

申込受付期間：平成29年7月1日（土）～ 先着45名

※7月1日以前に送信された申込メールは無効と致します。

定員になり次第締め切り。申し込み多数の場合、初めての方を優先させていただきますのでご了承ください。

お問合せ先：03-3964-3294（10:00～16:00 土日祝除く）



注意事項

- 昼食はこちらでご用意いたします。アレルギー等で食べられない場合は、各自ご用意ください。昼食メニューは参加確定された方にメールにてご連絡を致します。
- 集合写真およびグループワークの写真および動画の撮影をいたします。撮影された写真や動画は本学及びグループ校などの広報活動および監督官庁への報告等に使用される場合があります。また、当日学外の方の見学やマスコミの取材が入る可能性もあります。以上をご承諾頂けない場合、お申込みをご遠慮ください。お申込みをされた方は、ご了承いただいたものとさせていただきます。
- 保護者の控室はご用意しておりません。（当日の公共交通機関を使用した送り迎えのみ可）